

報告書

1 調査項目

つくばみらい市の観光事業について

2 調査目的

本市における自然や文化遺産、観光施設及び特産品などを総合的に生かした観光事業について、官民が連携した事業など新たな観光施策へと発展させるべく、観光事業について調査研究し、これからの課題解決に取り組むことを目的とした。

3 調査内容

【第1回】

経済常任委員会

日 時：平成30年12月10日（月）午後1時30分開会

場 所：谷和原庁舎 全員協議会室

出席者：委員6人、産業経済課職員、事務局職員

議 題：つくばみらい市の観光事業について

《協議内容》

執行部から「本市の観光事業の現状と今後の取組について」の説明を受け、執行部に対して質疑を行った。

【第2回】

聴き取り調査

期 日：平成31年3月11日（月）

場 所：つくばみらい市「ワープステーション江戸」

出席者：委員5人、事務局職員

調査項目：つくばみらい市の観光事業について

《調査内容》

ワープステーション江戸の所長から、本市の観光事業に対する要望や意見を伺った。

ワープステーション江戸は、今までは撮影所としての機能を優先させており、観光客や見学者をできる限り受け入れないような考えであったが、今後は積極的に観光客や見学者にとっても良い施設であるようにしていきたいと伺った。また、行政との連携も年々高まっており、今後は行政も一体となった取組ができるのではないかと伺った。

【第3回】

経済常任委員会

日 時：平成31年3月11日（月）午前10時開会

場 所：谷和原庁舎 全員協議会室

出席者：委員5人、事務局職員

議 題：つくばみらい市の観光事業について

《協議内容》

県外行政視察先を、「鹿児島県南九州市」及び「鹿児島県鹿児島市」に決定した。

【第4回】

行政視察1

期 日：令和元年5月20日（月）

視察場所：鹿児島県南九州市

出席者：委員5人、産業経済課職員、事務局職員

視察項目：既存施設を活用した観光施策について

《調査内容》

人口約35,000人の南九州市の主な産業は農業で、お茶とサツマイモの生産量が自治体単位で日本一を誇っている。

観光面では、江戸中期に造られた庭園など約700m区間の街並みが続く「知覧武家屋敷庭園群」があり、昭和40年代には文献などにも「薩摩の小京都・知覧」と紹介され、観光客は年々増加傾向にあった。昭和56年に国の重要伝統的建造物群保存地区に指定された後は、市街地と武家屋敷庭園群を中心に歴史と景観を生かした潤いある街並みへとインフラ整備も進められてきた。武家屋敷庭園群においては、組合による維持管理が行われているが、SNSによる情報配信や、定期的なイベント開催、地元ボランティアによる観光ガイドなど、官民協働で観光客誘致の取組を行っている。また、近年は保存地区内の空き家も増えていることから、移住定住促進対策として武家屋敷宿泊体験を行っている。

また、旧知覧町は、第二次世界大戦末期において特攻隊の出撃基地であったことから、当時の真の姿、遺品、記録を後世に残し、恒久の平和を祈念することを旨として、昭和62年に「知覧特攻平和会館」が創立され、戦死された特攻隊員たちの遺品や関係資料などが展示してある。館内では、地元出身の方々が当時の状況を解説する語り部になるなど、地元協力の取組を伺った。

2か所あわせての入場者数は、平成2年に100万人を超えて以来、約20年間は同程度の観光客数であったものの減少傾向にあり、昨年放送された大河ドラマ「西郷どん」の影響もあり一時的に回復したが、また徐々に減少してきている。

「武家屋敷庭園群」「特攻平和会館」共に、観光ボランティアや定期的なイベントを行っているが、今後は、商工会や観光協会と連携した新たなイベントの開催、観光案内ボランティアの育成、また、南九州市は宿泊施設も少なく通過型観光であるため滞在型の観光事業として宿泊施設確保など、リピーターを増やし、観光客減少に歯止めをかける対策が課題と伺った。

行政視察 2

期 日：令和元年 5 月 21 日（火）

視察場所：鹿児島県鹿児島市

出席者：委員 5 人、産業経済課職員、事務局職員

視察項目：観光未来戦略について

《調査内容》

人口 60 万人の鹿児島市は、九州新幹線鹿児島ルート全線が開通し、日本の南の交通拠点としての機能は一層高まった。

鹿児島市における観光未来戦略は、消費拡大や雇用の確保など、稼ぐ観光を実現するため、観光による経済効果、人口減少を背景とする交流人口拡大への期待、観光の優位性を事業者、市民、行政など観光に関係する全ての方々が共有するものである。

ストーリー性のある歴史文化の魅力を生かした観光振興や、外国人目線での観光案内などインバウンド対応の強化、近隣自治体との広域連携や都市連携協定のある超広域観光ルートの創出などを横断的に取り組んでいくもので、具体的には、バスやフェリーなど民間事業者への補助事業や民間イベントの補助金、（公財）鹿児島観光コンベンション協会が運営する鹿児島市 DMO（Destination Marketing/Management Organization）戦略プランがある。DMO は、観光市場に対する活動マーケティングと地域内の活動マネジメントに取り組むプロジェクトで、ターゲットを訪日外国人や若い世代の日本人を視野に新たな需要開拓に取り組んでおり、行政と民間や各関係団体など官民が連携を密にして取組を推進している。

今後は、効果的な観光プロモーションを行うとともに、観光消費額を増やすための施策や、外国人目線での交通、防災対策等の環境整備など、稼ぐ観光の実現に向け官民一体となって観光施策を進め、訪れてからの感動は、もう一泊、もう一食、もう一品の消費に繋がるような質の高い観光を体験してもらう施策が必要だと伺った。

【第 5 回】

聴き取り調査

期 日：令和元年 6 月 17 日（月）

場 所：谷和原庁舎 正副議長室

出席者：委員 6 人、事務局職員

調査項目：つくばみらい市の観光事業について

《調査内容》

つくばみらい市観光協会会員である「つくばみらい市エキストラの会」の会長から、本市の観光事業に対する要望や意見を伺った。

平成 17 年に発足されたエキストラの会は、平成 22 年には会員数が 2,200 人を超え、延べ 3,000 人以上がエキストラに参加していたが、東日本大震災後、ワープステーション江戸施設の修復等で撮影が激減し、その後、会員の高齢化や登録更新時の身分証明書の提出、連絡先の再確認などの制度を変更したことにより、会員数が 500 人まで減少したが、しっかりした人材を確保できたため、運営実績は緩やかに上昇している。今年度

より市からの補助がなくなり、制作会社からの手数料で運営しているが、制作会社や会員との連絡や事務関係は会長が無償で行っており、通信費は年間 30 万円かかるという。近年は、エキストラ派遣会社も参入してきたことから、エキストラの会としての営業活動も必要となっており、行政の関わりとして尋ねると、フィルムコミッション事業の強化や、宿泊や食事施設の誘致、公共交通の再編などの希望があった。また、観光協会との共同イベントなども行い、今後は若年層の会員確保に努めたいと話があった。

【第 6 回】

経済常任委員会

日 時：令和元年 6 月 17 日（月）午前 10 時開会

場 所：谷和原庁舎 全員協議会室

出席者：委員 6 人、事務局職員

議 題：つくばみらい市の観光事業について

《協議内容》

「つくばみらい市エキストラの会」の会長からあった本市の観光事業に対する要望や意見について、委員間で意見交換を行った。

「鹿児島県南九州市」及び「鹿児島県鹿児島市」での視察について、委員間で意見交換を行った。また、視察報告書の協議を行い、第 2 回定例会で議長に提出することを決定した。

県内行政視察先を、「小美玉市」に決定した。

【第 7 回】

聴き取り調査

期 日：令和元年 7 月 12 日（金）

場 所：茨城みなみ農協 板橋支店

出席者：委員 6 人、産業経済課職員、事務局職員

調査項目：つくばみらい市の観光事業について

《調査内容》

つくばみらい市観光協会会員である「つくばみらい市 4H クラブ」の会員から、本市の観光事業に対する要望や意見を伺った。

4H クラブは、若い農業者が中心となって組織され、農業経営をしていく上での身近な課題の解決方法を検討したり、より良い技術を検討するためのプロジェクト活動を中心に、消費者や他クラブとの交流、地域ボランティア活動を行っている。また、毎月第 1 土曜日に、みらいの森公園で行われる「あさのいち」も 4H クラブで開催している。会員は、正会員 14 人、準会員の学生が 1 人で、稲作のほか、トマト、ニンジン、大根等の野菜を中心に栽培し、農協のほか、各会員各自が販路を拡大し、農業経営をしている。「つくばみらい市は農業が基幹産業であるため、農業を観光につなげることはできないか。」と尋ねたところ、特産品として品目を特定せず、「何でもある農業」を強みに、農協や行政、農家が協力して、作付けから収穫まで食育にもつながる農業体験、交通の不便さを解消する対策としてカーシェアリングの活用、また、SNS を活用した集客方法や、近隣自治体との連携などの意見があった。

【第8回】

行政視察

期 日：令和元年7月29日（月）

視察場所：小美玉市「空のえき そ・ら・ら」

出席者：委員5人、事務局職員

視察項目：地域の特性を生かした観光事業について

《調査内容》

小美玉市にある「空のえき そ・ら・ら」は、茨城空港入口付近に位置し、今年で5周年を迎える公設公営の施設である。開港当初の見込み来場者数23万人をはるかに超え、平成30年度は51万人が訪れている。その背景には、駅長や若手職員の企画やアイデアを生かして、年間約170のイベントや音楽活動など、ほぼ毎日のようにイベントを開催している。小美玉市は、鶏卵出荷量全国1位や、生乳生産量県内1位の酪農の里であり、たまご王国・牛乳まつりなどの地域共同イベントで地域活性化やリピーターにも楽しんでもらえるような集客活動に取り組んでいる。また、「そ・ら・ら」の敷地内に乳製品加工施設を併設し、小美玉ヨーグルトを特産品として販売につなげている。また、昨年、若手職員の発案による全国初のヨーグルトサミットでは、地元運営ボランティア49人が8つのチームに分かれて企画・立案・運営まで行い、ヨーグルトを旗印に住民参画によるまちづくりが実現できたとのことであった。

今後は、茨城空港と「そ・ら・ら」間の市街化や、官民連携のサイクル事業計画、NPOと協働した人力車などで観光につなげたいとのことであった。

何も無い場所だからこそ、新しい視点から観光資源を掘り起こし、お宝を発見していくことが必要であり、また、近隣自治体との連携も重要課題とも話があった。

【第9回】

経済常任委員会

日 時：令和元年7月29日（月）午後2時30分開会

場 所：谷和原庁舎 全員協議会室

出席者：委員5人、事務局職員

議 題：つくばみらい市の観光事業について

《協議内容》

「つくばみらい市4Hクラブ」の会員からあった本市の観光事業に対する要望や意見について、委員間で意見交換を行った。

「小美玉市」での視察について、委員間で意見交換を行った。

【第10回】

経済常任委員会

日 時：令和元年8月21日（水）午後7時40分開会

場 所：谷和原庁舎 全員協議会室

出席者：委員6人、事務局職員

議 題：つくばみらい市の観光事業について

《協議内容》

最終報告書の協議を行い、第3回定例会で議長に提出することを決定した。

4 課題

- ・つくばみらい市の文化遺産や観光資源をどれだけの市民が知っているのか。
- ・市内外に、つくばみらい市の魅力を発信していくにはどのような施策が必要なのか。
- ・既存施設の活用及び新しい観光資源を発掘するにはどのような取組が必要なのか。
- ・観光振興により、つくばみらい市にとってどのような相乗効果があるのか。
- ・市民協働による観光事業を成功させるためにどのような仕組みづくりが必要なのか。

5 まとめ

観光事業とは、多岐にわたる分野からの発想で観光につなげることができる。既存の文化施設や農業観光なども踏まえ、まず、つくばみらい市を知ってもらう。そして、訪れてもらうことで、見る・食べる・遊ぶなどで地域が活性化することにより、地元企業や各種団体が豊かになり、総合的に経済効果も上がるものとする。最近ではSNSやインターネットを上手に活用したPR方法で外国人観光客にも注目されるという。本市の観光施策においては、観光協会や官民協働の発想と時代流行に合った迅速で固定観念にとられない柔軟な施策を検討し、観光への機運を高めることが必要と考える。

このことから以下に提言する。

6 提言

- ・新しい観点から観光資源の発掘に取り組むこと。
- ・熱意ある職員や市民からの新発想の企画・立案を採用するよう努めること。
- ・施設利用などの規制を緩和し、官民相互の信頼関係と連携したシステムの構築に取り組むこと。
- ・近隣自治体や各種団体、民間企業との連携の強化に取り組むこと。
- ・簡易宿所などの宿泊施設の誘致に取り組むこと。